

海を渡った鎌倉のユリ

明治・大正期のユリ球根の栽培と輸出

令和3年（2021年）5月改訂版 鎌倉市図書館

●はじめに

令和2年（2020年）9月8日～22日まで玉縄図書館で特別展示を行いました。

主催は「鎌倉玉縄ユリ・プロジェクト」という地域のグループです。これまで知られてこなかった地域の歴史がテーマとあって、多くの方が足を運んでくださいました。展示をきっかけに資料を寄贈していただいたり情報を寄せていただいたり、うれしい反響もありました。

このブックリストは、会場で配布したブックリストに新たな資料を追加した改訂版です。

1 鎌倉とユリ

シーボルトによって西洋にもたらされた日本のユリは評判を呼び、明治になると横浜港から輸出されるようになりました。鎌倉でも輸出用のユリの栽培が行われていた記述が当時の日記などに見られます。

大正初期には角田助太郎(つのだ すけたろう)氏によって玉縄で黒軸鉄砲百合の組織的栽培も始まり、鎌倉郡玉縄村はユリ球根の栽培地として名を知られるようになります。その後、関東大震災による横浜港の壊滅と助太郎氏の死去などが続き、玉縄での栽培はすたれていきました。

時を経て、昭和37年に開園した神奈川県立大船フラワーセンター大船植物園は、観賞植物の輸出振興を第一の目的として掲げていました。初代園長の清水基夫氏はユリに造詣が深く、神奈川生まれのユリ「うちだかのこ」は、フラワーセンターを事務局として出品した昭和38年のハンブルグ国際園芸展でゴールドメダルを受賞し、一時は100万球以上輸出するまでになりました。その後、産地が県外に移り、県内での生産は衰退してしまいましたが、フラワーセンターでは近年まで、ユリの育種や研究が続けられていたということです。

2 鎌倉市図書館所蔵の関連資料

*分類はNDC分類を記載し、別置記号は省きました。 *★の資料は、館内でご利用ください。

【鎌倉の近代史から】

分類	書名	著者	出版年	内容
914.6キ	鎌倉記憶帖	木村彦三郎	1986	長く鎌倉の近代史研究に関わった著者の著作をまとめた資料。『鎌倉タイムズ』に連載された「真なき風土記」の(12)「テッポウユリ」の文化史と鎌倉」にユリ栽培や輸出の記述がある。
210.6	大街堂日記 (鎌倉近代史資料集 14)	鎌倉市中央図書館近代史資料室／編	2005	「オオケイドウニッキ」と読む。関谷の落合家に残されていた明治8年・9年・23年・24年の日記をまとめたもの。ユリ栽培の記述が散見される。
380.1	としよりのはなし (鎌倉市文化財資料第7集)	鎌倉市教育委員会／編	1971	市内各地域の古老のお話を座談会形式で聞き取り、まとめたもの。二階堂の回で、テッポウユリを栽培して輸出していたことが語られている。

【鎌倉の近代史から】

分類	書名	著者	出版年	内容
291	NOTES IN JAPAN	ALFRED PARSONS	1896	イギリスの画家・園芸家であるアルフレッド・パーソンズが1892年に来日した際の旅行記。「A FIELD OF LILIES, OFUNA, NEAR KAMAKURA」という絵には、ユリ畑が描かれている。
289.1	郷土の偉人 <small>ツノダ ショザエモン オウ</small> 角田所左エ門翁	福岡伸一	不明	角田助太郎氏の父、所左衛門氏の伝記。戸長や玉縄小学校の学務委員を長く務め、地域の教育振興等に尽力した。玉縄小学校には氏の功績を讃える石碑がある。

【園芸史・ユリ】

622.1	絵図と写真でたどる明治の園芸と緑化	近藤三雄・平野正裕	2017	明治期に植物の海外輸出を手掛けた「横浜植木」の125周年記念として出版された資料。ユリの図版や資料も豊富に掲載。
622.1	日本園芸界のパイオニアたち	椎野昌弘	2017	日本の園芸界の発展に功績がある人々の列伝。フラワーセンター初代園長の清水基夫氏や農事試験場長の宮澤文吾氏の項目もある。
627.6	★ユリ (カラー園芸ガイド)	大石勝彦	1998	フラワーセンターでユリの育成に携わった著者による園芸ガイド。豊富な写真とイラストで、ユリの種類や特徴、育成法など読み物としても楽しめる内容。
627.6	よくわかる栽培12か月 ナリ	肥土邦彦	2002	ユリの種類、歴史、栽培法までユリについてよくわかる本。
627.6	★アジアのユリ	荒川克郎	2020	ユリ協会が作成したパネルの写しをファイルしたもの。パネルは、会期中、玉縄図書館でも展示した。簡易版の貸出用もある。

【フラワーセンター】

分類	書名	著者	出版年	内容
627.6	★神奈川の輸出球根の歩み	神奈川県立フラワーセンター大船植物園／編集	1970	明治時代に、鎌倉郡玉縄村でテッポウ・カノコが栽培されていた記述や、大正初期に角田助太郎氏が黒軸テッポウを手広く栽培、アイザック・バンティング社の副社長として活躍した記述がある。
470.7	★神奈川県立フラワーセンター大船植物園 (案内パンフレット)	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	1963	開園の翌年に作成されたパンフレット。冒頭に「オランダのキューケンホフ球根園のような、いわゆる産業と結びついた植物園として、観賞植物の輸出振興を第1の目的としております。」という記述があり、開園当時の理念がわかる。表紙の写真はユリ。
470.7	★開園20周年 (案内パンフレット)	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	1982	観賞植物の輸出振興から、花や緑に親しむ場へと転換していく時期の記念誌。

【フラワーセンター】

分類	書名	著者	出版年	内容
470.7	花でつなぐ県民との心のかけ橋30年 (神奈川県立フラワーセンター大船植物園開園30周年記念誌)	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	1992	開館以来30年の詳しい年表あり。出版物リストも掲載。
470.7	★EXPORT OF THE FLOWERING PLANTS OF KANAGAWA VI (英語版パンフレット)	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	1968	海外向けパンフレット。毎年発行されており、6号にあたる本号の内容は、「日本の野生ゆり」。
610.7	★病害虫研究と写真集－神奈川県農業総合研究所の100年－	近岡一郎	1996	大正10年から昭和33年まで玉縄にあった農事試験場の記録。移転後の跡地にフラワーセンターができた。
470	★植物園からの便り－開園40周年を記念して	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	2004	フラワーセンター職員の館内案内や体験談。ユリの育成栽培の記述もあり。
470.7	★観賞植物の海外事情＜海外試作と調査＞	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	1966	輸出振興のため、海外の植物園に内田カノコユリなどの試作展示を依頼したり、その国の需要を調査したりした報告書。

【子ども向け】

627	ユリの絵本 (そだててあそぼう 82)	今西英雄 / 編	2009	ユリの種類、歴史、育て方、食べ方までユリについてよくわかる本。子どもから大人まで楽しめる本。
かみしばい	ユリと玉縄小学校のお話	鎌倉玉縄ユリ・プロジェクト	2020	角田所左衛門氏と玉縄小学校の関わり、ユリ栽培と輸出など地域の歴史を子ども向けに描いた紙芝居。

3 関連情報

	タイトル URL	内容
インターネット情報	明治・大正時代の海を渡った鎌倉のユリのお話 http://kamakurayasai.com/lily01/	「鎌倉玉縄ユリ・プロジェクト」が作成・公開しているページ。写真も多く、読みやすい。
	明治後期にユリ根の輸出の多くが横浜港で行われていたことがわかる資料を確認したい。(横浜市中央図書館) https://iss.ndl.go.jp/books/R000000006-1000204956-00	国立国会図書館のレファレンス協同データベースの情報。調べる手順や関連資料のヒントになる。今回のレファレンスではないが、鎌倉市図書館が提供した情報もある。